Nara National Museum

奈良国立博物館だより

第120号

令和４年　１・２・３月

国宝　十一面観音菩薩立像（奈良・聖林寺）

特別展
名画の殿堂 藤田美術館展
— 傳三郎のまなざし —
12月10日㈮～令和4年1月23日㈰
西新館

特別展
国宝 聖林寺十一面観音
— 三輪山信仰のみほとけ
令和4年2月5日㈯～3月27日㈰
東新館

特別展
大安寺のすべて（予告）
— 天平のみほとけと祈り—
令和4年4月23日㈯～6月19日㈰
東西新館

特別陳列
お水取り
令和4年2月5日㈯～3月27日㈰
西新館

特集展示
新たに修理された文化財
令和4年3月1日㈫～3月27日㈰
西新館

名品展
珠玉の仏たち
通年　なら仏像館
中国古代青銅器
通年　青銅器館

特別展

国宝　聖林寺十一面観音

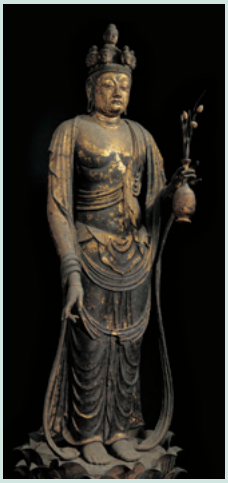
―三輪山信仰のみほとけ

2月5日(土)～3月27日(日)

奈良県桜井市にある聖林寺の国宝　十一面観音菩薩立像は天平彫刻の名作で、日本を代表する仏像のひとつです。法隆寺の国宝　地蔵菩薩立像などとともに、江戸時代までは同市の大神神社に祀られていました。大神神社は本殿を持たず、三輪山を拝む日本古来の自然信仰をいまに伝えますが、奈良時代以降には仏教の影響を受けて神社に付属する寺（大神寺、後に大御輪寺に改称）や仏像がつくられました。

本展では、大御輪寺にあった仏像や大神神社の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品なども展示します。十一面観音菩薩立像が奈良国立博物館で展示されるのは、平成十年（一九九八）の特別展「天平」以来二十四年ぶりとなります。その比類なき美しさをご覧ください。

国宝　地蔵菩薩立像（奈良・法隆寺）



国宝　十一面観音菩薩立像（奈良・聖林寺）

大国主大神立像（奈良・大神神社）

子持勾玉（三輪山禁足地および周辺出土）（奈良・大神神社）

特別陳列

お水取り

2月5日(土)～3月27日(日)

「お水取り」は、毎年三月に東大寺二月堂でおこなわれる仏教の法会で、正式には修二会といい、天平勝宝四年（七五二）に創始されて以来、一度も絶えることなく続けられています。「お水取り」の名は、法会中に、井戸の水を汲んで本尊にお供えする作法があることに由来しますが、本展ではこれに関連する品も展示されます。二羽の鵜が岩盤の穴から香水（清らかな水）を湧き出させたという説話を描く「二月堂縁起」、二月堂下の井戸から汲んだ香水を堂内まで運ぶ「朱漆塗担台」、その香水を人々に分けるときに使う「香水杓」など、数々の貴重な資料を通じ、「お水取り」の世界をお楽しみください。

二月堂縁起　上巻（奈良・東大寺）

重要文化財　香水杓（奈良・東大寺）

朱漆塗担台（奈良・東大寺）

特別展

名画の殿堂 藤田美術館展

―傳三郎のまなざし―

～1月23日(日)

本展は令和元年(二〇一九)春に当館で開催した特別展「国宝の殿堂　藤田美術館展」の続編で、令和四年(二〇二二)四月にリニューアルオープンを控えた大阪・藤田美術館の所蔵品のなかから、絵画作品を中心に構成し、様々な時代の名品を一堂にご紹介しています。

全七十四件の展示作品中、初公開作品が二十三件、藤田美術館外での公開が初めてとなる作品が十九件を数えます。これらは近年藤田美術館と奈良国立博物館が共同で行った所蔵絵画の調査で確認された隠れた名品群です。本展ではコレクションを代表する絵画作品とともに、こうした隠れた名品をご覧いただきます。

鍾呂伝道図　伝馬麟筆(大阪・藤田美術館)　※初公開

特集展示

新たに修理された文化財

3月1日(火)～3月27日(日)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、当館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するとともに、その修理内容についてパネルでご紹介いたします。

金銅装山伏笈(当館)付属の五仏像に剝落止めを施す様子

特別展

大安寺のすべて

―天平のみほとけと祈り―

4月23日(土)～6月19日(日)

わが国最初の天皇発願(ほつがん)の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍(がらん)を構えた大安寺(だいあんじ)。東大寺や興福寺などとともに南都七大寺の一つに数えられ、奈良時代、一時期を除き筆頭寺院としての格を有していました。また、千人にも及ぼうかという国内外の僧侶達がここを学び場とし、後に諸方面で活躍しました。まさに大安寺は時代をリードする大寺院だったのです。本展では、千三百年の時を経て今に法灯を伝える大寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度からご紹介します。

風鐸(大安寺西塔出土)(奈良市埋蔵文化財調査センター)

重要文化財　伝十一面観音菩薩立像(奈良・大安寺)

話題

聖林寺十一面観音の評価

当館学芸部美術室長　岩井　共二

和辻哲郎が「神々しい威厳と人間のものならぬ美しさ」（『古寺巡礼』）と評し、多くの人々が称賛してきた奈良・聖林寺の国宝 十一面観音菩薩立像（以下、聖林寺像）。天平彫刻の傑作とされるこの像を、かつて全面的に否定した研究者がいた。東京教育大学、名古屋大学、武蔵野美術大学で教鞭をとり、美術全集『奈良六大寺大観』の編集委員代表を務めるなど、戦後日本の仏教美術研究の発展に大きな足跡を残した町田甲一（一九二六～九三）である。その最初の著作である『天平彫刻の典型』の中で、町田は聖林寺像を「俗受け」する「愚作極まる」作と断じ、その姿形を徹底的にこき下ろしたのである。その語り口は、聖林寺像に恨みでもあったのかと勘ぐりたくなるほどである。

町田は、聖林寺像に「天平末の形式化の欠点いちじるしい二流品」（『大和古寺巡歴』）という評価を下し、その評価をかえることはなかった。この町田の見解は、戦後昭和期の聖林寺像の評価に少なからず影を落としているように思う。研究者や愛好家の中には、町田の評価に影響された人も少なくないはずだ。

国宝　十一面観音菩薩立像（奈良・聖林寺）

なぜ、町田は多くの人が傑作とした聖林寺像を愚作と断じたのであろう。これが古典的な美を否定した芸術家岡本太郎の発言であれば、別に不思議でもない。しかし、町田は先述の著作の中で、東大寺法華堂不空羂索観音像をはじめとした天平期の諸像を絶賛し、その対比として聖林寺像をけなしているのである。この差は何なのだろう。

その理由を説く鍵は、町田の様式観にあるようだ。町田は前著において天平彫刻の典型を「人間を直接典型として人生主義的人間昂揚の理念の造形的表現」、すなわち現実の人間の姿を理想的に写実表現したものであるというのだ。

一方、聖林寺像は、上半身の肉付けや下半身の長大さが強調され、奥行きも実際の人間よりも深い。また、平安時代前期の仏像の特徴である翻波式衣文のような衣文が脚部に表されている。つまり、写実表現とは言えない特徴を備えているのである。

このような、やや現実離れした肉体表現の聖林寺像を天平彫刻の典型とし、ましてや傑作とすることは、町田の様式観からは到底容認出来なかったのであろう。結局、町田は自らの考える様式観の中に、聖林寺像を落とし込むために、この像を無理矢理におとしめてしまったように思える。しかし、いわゆる古典的な写実表現の作品が絶対的な優品だとするのは、いささか違うように思う。人間の感性を揺さぶるような迫真性は、写実表現を超えたところに発現するのではないだろうか。

和辻哲郎は、大正七年（一九一八）に奈良帝室博物館本館（現：なら仏像館）に陳列された聖林寺像を見た。それから百年余りが過ぎた。令和四年（二〇二二）二月、特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」にて聖林寺像が再び奈良国立博物館にやってくる。平成十年（一九九八）の「天平展」以来二十四年ぶりであるが、これまでで最高の条件で聖林寺像を鑑賞できる千載一遇の機会だ（と筆者は自負している）。どうかこの機会に、過去の言説に縛られることなく、自らの目で、聖林寺十二面観音の「美」を感じ取っていただきたい（文中敬称略）。

参考文献

町田甲一『天平彫刻の典型』座右宝刊行会、一九四七年
町田甲一『大和古寺巡歴』講談社学術文庫、一九八九年
奥健夫「三輪山信仰と聖林寺十二面観音菩薩立像」特別展図録『国宝　聖林寺十二面観音―三輪山信仰のみほとけ』所収　二〇二二年

出陳一覧

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館

令和3年12月21日(火)～

【彫　刻】

〔第1室〕

阿弥陀如来像	個人
◎観音菩薩立像	文化庁
不動明王立像	正智院
天部形立像	法明寺
普賢菩薩坐像	個人
不動明王及び二童子立像	個人

〔第2室〕

◎阿閦如来坐像	西大寺
天部坐像	当館
◎文殊菩薩坐像	薬師寺
毘沙門天立像	如法寺
◎菩薩立像	金竜寺

〔第3室〕

阿弥陀三尊像	峰定寺
〈特別公開〉	
阿弥陀如来立像	尾添区
阿弥陀如来立像	個人
阿弥陀三尊像	個人

〔第4室〕

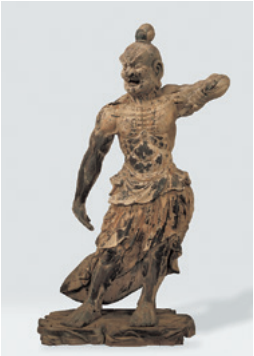
三尊塼仏	南法華寺
六角形塼仏(伝三重県天華寺出土)	当館
塑像片(奈良県定林寺出土)	当館
小型独尊塼仏(三重県夏見廃寺出土)	当館
塑像断片(迦楼羅頭部ほか)(奈良県川原寺出土　明日香村教育委員会)	
塑像断片(天部・僧形像ほか)(滋賀県雪野寺出土)	福命寺

〔第5室〕

◎誕生釈迦仏立像	正眼寺
誕生釈迦仏立像	個人
◎誕生釈迦仏立像	悟真寺
誕生釈迦仏立像	当館
観音菩薩立像	法徳寺
観音菩薩立像	興福院
◎観音菩薩立像	法隆寺
◎観音菩薩立像	観心寺
◎観音菩薩立像	金剛寺
観音菩薩立像	個人
仏手	新薬師寺
如来坐像	当館
誕生釈迦仏立像	個人
二仏並坐像	当館
菩薩立像	個人
十一面観音菩薩立像	個人
力士立像	個人
◎如来立像	光明寺
如来立像	当館
釈迦如来坐像	園城寺
誕生釈迦仏立像	薬師寺
勢至菩薩立像	当館
如来倚像(押出仏)	当館
観音菩薩立像(押出仏)	当館

〔第6室〕

四天王立像残片	西大寺
◎広目天立像	興福寺
●薬師如来立像	元興寺
文殊菩薩騎獅像	東大寺
◎天神坐像	與喜天満神社
◎重源上人坐像	浄土寺
〈特別公開〉	
◎金剛力士立像	金峯山寺



金剛力士立像　(奈良・金峯山寺)

〔第7室〕

◎光背(二月堂本尊所用)	東大寺
観音菩薩立像	当館
◎観音菩薩立像	文化庁
◎観音菩薩立像	勝林寺
◎十一面観音菩薩立像	元興寺
◎千手観音菩薩立像	園城寺
◎十一面観音菩薩立像	地福寺
◎十一面観音菩薩立像	勝林寺
◎十一面観音菩薩立像	新薬師寺
◎十一面観音菩薩立像	当館

〔第8室〕

◎如来三尊像	当館
◎如来三尊像	個人
大日如来坐像	十市町自治会
薬師如来坐像	玉峰寺
◎阿弥陀如来立像(裸形)	浄土寺
◎梵天立像	秋篠寺
◎救脱菩薩立像	秋篠寺

〔第9室〕

◎十一面観音菩薩立像	松尾寺
◎十一面観音菩薩立像	西光院
弥勒菩薩立像	林小路町自治会
◎明星菩薩立像	弘仁寺
地蔵菩薩立像	法徳寺
地蔵菩薩立像	万福寺

〔第10室〕

◎不動明王坐像	正寿院
◎馬頭観音菩薩立像	浄瑠璃寺
愛染明王坐像	当館
不動明王立像	当館
大威徳明王騎牛像	当館

〔第11室〕

僧形神坐像	当館
女神坐像	当館
童子形坐像	当館
◎蔵王権現立像(五軀)	大峯山寺
十二神将立像(子～巳神)	当館
持国天立像・増長天立像	法徳寺
◎十一面観音菩薩立像	当館

〔第12室〕

天部形立像	個人
二天王立像	室生寺
毘沙門天立像	高尾地蔵堂
帝釈天坐像	室生寺
吉祥天倚像	当館

〔第13室〕

阿弥陀如来立像	浄土寺
◎菩薩面	浄土寺
〈特別公開〉	
◎金剛力士立像像内納入品	金峯山寺
破損仏像残欠コレクション	当館

名品展 中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※◉＝国宝、◎＝重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

【表紙解説】

国宝　十一面観音菩薩立像

一軀
木心乾漆造り、漆箔
像高二〇九・一cm
奈良時代（八世紀）
奈良・聖林寺蔵

頭部は卵形の輪郭をつくる。切れ長で眼窩線（眼球の周りのライン）をくっきりと刻んだ目、がっしりとした鼻梁に、ややきつく結んだ口。「沈鬱」などと評される全体に厳しい表情が特徴である。顔は木心の上に厚く木屎を盛って塑形され、柔らかい質感が表現されている。また、頭上には制作当初の頭上面として、頂上仏面一、菩薩面二、怒りの表情を表す瞋怒面三、牙を表す牙上出面二が残る。各面の繊細な表情も本像の魅力の一つである。

岩井　共二（当館学芸部美術室長）

◆特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」にて展示

◆奈良国立博物館賛助会

令和4年1月1日現在、特別支援会員1団体、特別会員4団体、一般会員（団体）17団体、一般会員（個人）89名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕　㈱読売新聞大阪本社
〔特別会員〕　㈱奥村組西日本支社、㈱朝日新聞社、㈱ライブアートブックス、㈱ゴードー
〔団体会員〕　日本通運㈱関西美術品支店、㈱尾田組、㈱伏見工芸、㈱木下家具製作所、㈱天理時報社、㈱きんでん奈良支店、奈良信用金庫、ひかり装飾㈱、㈱南都銀行、小山㈱、オフィス・カワイ、㈱葉風泰夢、桃谷樓、小路谷写真㈱、校倉な会
〔個人会員（新規）〕　小宮 竹史様、谷川 紀彦様（以上、令和3年10月ご入会）、五嶋 滋之様、大森 勝様、福岡 雅子様、荒屋 滋子様、吉田 ゆかり様（以上、令和3年11月ご入会）

◆キャンパスメンバーズ

特別展「名画の殿堂　藤田美術館展」および「国宝　聖林寺十一面観音」では、キャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施します。

詳細は、当館ホームページまたは右記QRコードよりご確認ください。

令和4年1月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学（以上、五十音順）

◆「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館の特別展及び国立博物館4館の平常展をお得にご観覧いただける「奈良博プレミアムカード」、国立博物館４館の平常展を無料で観覧できる「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。WEBからも購入いただけます。

詳しい情報は下記QRコードからご確認いただくか、当館観覧券売場へお問い合わせください。

プレミアムカード

メンバーズパス

◆文化財修理保存基金◆

令和4年1月1日現在、「文化財修理保存基金」に1団体、1名の方に多額のご寄付をいただいております。

〔団　体〕　神奈川県串川中学校卒業生
〔個　人〕　小宮 竹史様

新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、皆様のご協力をお願いいたします。詳しい情報は右記QRコードよりご確認ください。

なお、展示やイベント等につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通（つう）」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加ください。

■1月16日(日)
「辟邪絵をめぐって」
谷口　耕生（当館学芸部教育室長）
疫病や災いを引き起こすとされた鬼とたたかう五人の善神を描く平安絵巻の傑作「国宝　辟邪絵」。奈良博を代表する名品の魅力を紹介するとともに、その勇ましい図像の典拠や、「地獄草紙」の名で伝来した信仰背景にも迫ります。
［受付期間　12月27日(月) 10:00～1月15日(土) 17：00］

■2月20日(日)
「ほとけの装いにみる工芸」
三本　周作（当館学芸部研究員）
仏像や仏画のほとけは、美しい衣やよろい、装身具を身につけています。これらは織物、皮革、金具といった工芸品を彫刻や絵画として再現したものです。ほとけのきらびやかなファッションの世界を、実際の工芸品と比較しながら楽しみます。
［受付期間　1月31日(月) 10：00～2月19日(土) 17：00］

■3月20日(日)
「“サスティナブル”な文化財保存」
荒木　臣紀（当館学芸部保存修理指導室長）
昨今よく耳にする単語“サスティナブル（持続可能）”。この概念を組み込んで行なっている文化財保存活動を保存対象となった古写真（銀板写真）の紹介と共に解説いたします。
［受付期間　2月28日(月) 10：00～3月19日(土) 17：00］

■4月17日(日)
「薬師如来像をめぐって」
伊藤　旭人（当館学芸部研究員）
薬師如来は、左手に良薬の入った壺「薬壺」を執るすがたでよく知られています。日本では平安時代に薬師信仰のブームが起き、多くの彫像が造られました。今回は平安中期（10～11世紀）の作例を中心に取り上げ、その信仰背景と魅力をご紹介します。
［受付期間　3月28日(月) 10：00～4月16日(土) 17：00］

■5月15日(日)
「文化財を加害するムシの話」
小峰　幸夫（当館学芸部研究員）
自然界には多くの昆虫がおり、その中には博物館の収蔵品（文化財）を加害する昆虫もいます。害虫から文化財を守るためにはまず、相手（害虫の種類）を知る必要があります。文化財を加害する害虫の種類やその防除法についてお話しいたします。
［受付期間　4月25日(月) 10：00～5月14日(土) 17：00］

■6月19日(日)
「文化財の健康診断―X線CT調査でみる文化財―」
安藤　真理子（当館学芸部研究員）
2017年に大型文化財用X線CTスキャン装置を導入して以来、奈良博は数々のCT調査をおこなってきました。文化財の内部に秘められた構造・制作技法・劣化状況・修理歴など、実際のCT調査結果と共にご紹介します。
［受付期間　5月30日(月) 10：00～6月18日(土) 17：00］

【時　　間】　各回とも14：00～15：30（13：30開場）
【会　　場】　当館講堂
【定　　員】　各回90名（事前申込先着順）
【申込方法】　当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください（WEB申込のみとなります）。
【受付期間】　各講座欄をご覧ください。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。
※聴講には事前申込が必要です（当日申込でのご参加はできません）。
※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。
※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。
※4月以降、状況により定員を変更する可能性があります。
変更がある場合はホームページでお知らせいたします。

❖ 公開講座 ❖

◆特別陳列「お水取り」
2月19日(土)　「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」
北河原　公敬　師（東大寺長老）

【時　　間】　13：30～15：00（13：00開場）
【会　　場】　当館講堂
【定　　員】　90名（事前申込先着順）
【申込方法】　当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください（WEB申込のみとなります）。
【受付期間】　1月24日(月) 10：00～2月18日(金) 17：00

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。
※聴講には事前申込が必要です（当日申込でのご参加はできません）。
※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。
※応募はお1人様1回でお願いいたします。
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

◆特別展「国宝 聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」
3月5日(土)　「聖林寺十一面観音菩薩立像をめぐって」
岩井　共二（当館学芸部美術室長）

【時　　間】　13：30～15：00（13：00開場）
【会　　場】　当館講堂
【定　　員】　90名（事前申込制）
※抽選による座席指定制です。
【応募期間】　12月6日(月)～1月21日(金)必着
【応募方法】　はがきかファクスに、代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と同伴者（1名まで）の氏名、年齢を書いて、以下の宛先にご応募ください。
はがき：〒539-0041（住所不要）
読売新聞大阪本社文化事業部「聖林寺展」公開講座係
ファクス：06-6366-2370
展覧会公式サイトからもお申し込みいただけます。
【参加証の送付】　当選者には、2月3日(木)までに参加証をお送りします。当日必ずご持参ください。参加証で展覧会場に入場することはできません。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。
※はがきでの応募の際、消せるボールペンは使用しないでください。
※お預かりした個人情報は、本展公開講座の連絡のみに使用します。
【お問い合わせ】　読売新聞大阪本社文化事業部
電話：06-7732-0063（平日10:00～17:00）

❖ インターネット ❖

奈良国立博物館では、ウェブサイトやTwitter、YouTubeでの情報発信をおこなっています。
「ならはく教育普及室」<https://edu.narahaku.go.jp/>のサイトでは、文殊の知恵から生まれた「ちえひろ丸」（知恵広まる）や「ざんまいず」たちが様々なイベントや読みものをご紹介しています。

TwitterやYouTubeでは、最新の情報や季節の話題、ここでしか見られない貴重な動画などをご覧いただけます。ぜひ、フォロー、チャンネル登録してみてください。

Twitterアカウント（@narahaku_PR）

YouTubeチャンネル（【公式】ならはくチャンネル）

展示品のみどころ

名品展「珠玉の仏たち」

六角形塼仏

伝三重県天華寺出土
土製
復元縦22.0cm
復元横14.0cm
厚4.5cm
飛鳥時代（7世紀）
当館

塼仏とは、粘土板に仏の姿を半肉彫りで表したもの。飛鳥時代から奈良時代にかけて主に畿内の寺院で用いられた。天華寺は三重県松阪市に所在した7世紀後半創建とされる寺院で、本品と同一の型で製作されたとみられる塼仏が多数出土している。如来の脇に小穴が穿たれていることと考え合わせると、仏堂の内壁に何面も貼り並べて、千仏洞のような祈りの空間を作り出していたのだろう。

ふくよかな顔立ちの如来や火焔を表した光背が見どころの中心ではあるが、なにより本品を特徴付けるのは縦長六角形の輪郭である。古代の塼仏の輪郭は方形や火頭形が一般的であり、このようなデザインは非常に珍しい。壁面に亀甲文のような配置で隙間なく貼り並べられたのだろうか。塼仏のメッカであった大和の寺院でもみられない趣向の堂内荘厳が、畿内からいささか離れた地で採用されたことは大変興味深い。

中川　あや（当館学芸部企画室長）

特別陳列「お水取り」

処世界日記

重要文化財
二月堂修二会記録文書のうち
1帖
紙本墨書
縦18.1cm　横16.5cm
江戸時代　寛文7年（1667）
奈良　東大寺

東大寺二月堂の修二会（お水取り）は、天平勝宝4年（752）に創始されて以来、一度も絶えることなく毎年続けられている法会である。現在は毎年3月に、11名の練行衆が2週間にわたって二月堂に籠もり、十一面観音の前で悔過作法をおこなう。練行衆11名にはそれぞれ役名があり、序列と役割が決まっている。

練行衆のうち末席を務めるのが「処世界」で、法会の様々な雑用を担当する。ここに掲げる書物は、修二会の本行初日から満願日まで、処世界がおこなうべき事柄を概ね時間順に記したものである。華籠や香箱の準備から灯明皿の配置の仕方、勤行のはじめに鐘を打つタイミングなど、細々とした所作が丁寧に記述されている。冒頭の見返し部分には二月堂内陣の指図が描かれ、主な練行衆の配置も示されている。

本書のように実際の法会で参照された処世界の参考書は、本品を含めていくつか伝わっている。本品は、僧実性が寛文7年（1667）正月に書写したもの。実性は、その翌年（寛文8）に初めて練行衆となり、処世界を務めている。

野尻　忠（当館学芸部資料室長）

■開館日時（1月～3月）

■開館時間／午前9時30分～午後5時
※特別展「国宝 聖林寺十一面観音」・特別陳列「お水取り」は、毎週土曜日のみ午後7時まで。
※名品展は、毎週土曜日と2月3日（木）は午後7時まで。

■休館日／毎週月曜日
※1月3日（月）、2月14日（月）、3月7日（月）・14日（月）は開館。
※1月10日（月・祝）・3月21日（月・祝）は開館し、1月11日（火）・3月22日（火）は休館となります。

■無料観覧日（名品展）／2月3日（木）

■観覧料金　名品展・特別陳列・特集展示

	一　般	大学生
個人（当日）	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはミライロIDをお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします（親子割引）。

■観覧料金　特別展「国宝 聖林寺十一面観音」

	一　般	高校・大学生	小・中学生
通常券	1,400円	1,000円	500円
前売券	1,200円	800円	300円

※前売券の販売は2月4日（金）まで。当館観覧券売場、近鉄主要駅、ローソンチケット（Lコード:58100）、イープラスほかで販売中です。
※本展は日時指定制でありません。
※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、奈良博プレミアムカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）は無料（要証明）。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は400円、同（教職員）の方は1,300円で当日券をお求めいただけます（要証明）。参加校など詳細は、奈良国立博物館公式サイトをご確認ください。
※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です（一般と小学生以下を除く）。
※団体料金の設定はありません。
※館内が混雑した場合は、入場を制限する場合があります。
※本展の観覧券で、同日に限り、特別陳列「お水取り」、特集展示「新たに修理された文化財」（3月1日（火）から）、名品展（なら仏像館・青銅器館）もご覧になれます。

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので近隣の県営駐車場等（有料）をご利用ください。

奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は94円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）　ハローダイヤル 050－5542－8600　ホームページ https://www.narahaku.go.jp/